

【募集代理店】



【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

# アロケーション20(09)C 月次運用実績レポート

## 2013年7月

【利用する投資信託の委託会社】

### アライアンス・バーンスタイン株式会社



アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタインの日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

\*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険(09)終身D3型」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険(09)終身D3型」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」、「商品パンフレット」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート (2013年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

## 運用環境 [ 2013年7月 ]

### 【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前月末比 0.19%下落の1,131.70ポイントで終了しました。  
 前半は、日銀短観の改善や円安の進行、FRB(米連邦準備制度理事会)議長発言から量的緩和縮小観測が後退したことなどを背景に米国株式が堅調に推移したことなどから上昇しました。加えて、参議院選挙で自民・公明圧勝と事前に報道されていたことも株式市場の追い風となりました。後半は、米国の景気指標や企業業績を好感して上昇した後、一部の国内企業の業績下方修正や円高進行などを背景に下落しました。  
 業種別(東証33業種)では、主力銘柄で業績が上方修正された他、金価格の反発も好感された「非鉄金属」(前月末比+7.76%)が最も上昇した一方、業績懸念から「化学」(同 3.18%)が最も下落しました。

### 【外国株式市場】

米国株式市場は、前半、米雇用統計の改善や、FRB議長発言から量的緩和縮小観測が後退したことなどをを受けて上昇しました。後半は、2013年4-6月期の企業決算が概ね市場予想を上回ったことなどをを受けて堅調に推移し、NYダウは、前月末比+3.96%上昇の15,499.54ドルで終了しました。  
 欧州株式市場は、上旬から中旬にかけては、ポルトガルの政局不安などにより一時下落する局面がありましたが、ECB(欧州中央銀行)総裁の低金利政策継続示唆やFRB議長発言などにより上昇しました。下旬は、欧州の一部企業の業績が予想を下回ったことなどによりドイツ株式市場などでは下落基調で推移しましたが、月を通してみると、市場別騰落率は、英FT100が前月末比+6.53%上昇、仏CAC40が同+6.79%上昇、独DAXが同+3.98%上昇となりました。

### 【日本債券市場】

日本債券市場は、前半、長期国債入札への警戒感などから金利は上昇(価格は下落)しましたが、米国で量的緩和縮小観測が後退し、米国金利が低下したことを受け、金利は低下(価格は上昇)しました。後半は、米国金利低下の影響や、国内株式の下落などをを受けて買いが優勢となり、金利は低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは0.795%となりました(前月末は0.855%)。  
 日銀はマネタリーベースが年間約60~70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

### 【外国債券市場】

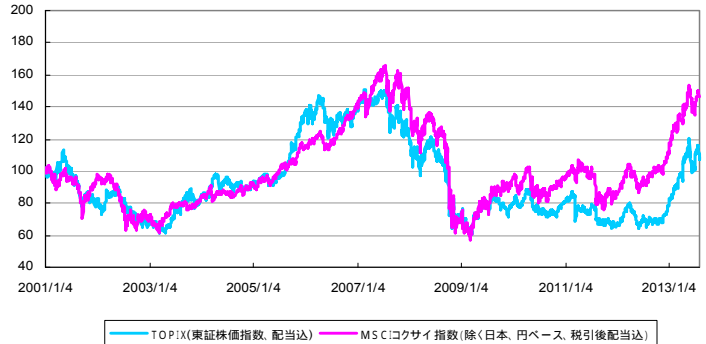
米国債券市場は、上旬から中旬にかけて、米雇用統計の改善などをを受けて一時金利は上昇(価格は下落)しましたが、FRB議長発言から量的緩和縮小観測が後退したことを受けて低下(価格は上昇)しました。下旬は、5年国債入札が不調との見方から10年国債にも売り強まり、金利は上昇基調で推移し、米10年国債利回りは、月末は2.576%となりました(前月末は2.486%)。  
 欧州債券市場は、上旬から中旬にかけて、米雇用統計の改善などにより金利が上昇(価格は下落)する局面がありましたが、ECB総裁やFRB議長が金融緩和姿勢を示唆したことなどから低下(価格は上昇)しました。下旬は、ユーロ圏の製造業活動が予想外に拡大したことなどから、ドイツ国債需要が後退して金利は上昇基調で推移しましたが、月を通してみると、独10年国債利回りは、月末は1.670%となりました(前月末は1.728%)。  
 FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECBは政策金利を据え置き、年0.50%を維持しました。

### 【外国為替市場】

米ドル/円相場は、前半、米雇用統計の改善などをを受けて円安となりましたが、米国の量的緩和縮小観測の後退や米国の長期金利低下による日米金利差の縮小などから、円高ドル安が進みました。後半は、米国株式や米国債の動きが落ち着きリスク選好の動きが強まり円安の局面がありましたが、月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)で實質ゼロ金利政策継続の目安となる失業率の水準が議論されるとの報道や国内株式の大幅下落などをを受けて円高が進み、円は対ドルで前月末比51銭(0.52%)円高ドル安の1ドル=98円08銭となりました。  
 ユーロ/円相場は、前半、ECBが緩和的な政策の維持を示唆したことなどにより円高の局面がありましたが、米国の量的緩和縮小観測が後退したことを受けユーロが対米ドルで上昇した結果、円安となりました。後半は、ユーロ圏の景況感の改善などにより円安基調で推移した後、月末にかけて国内株式の大幅下落などをを受け円高となりましたが、月を通してみると円は対ユーロで前月末比1円52銭(1.18%)円安ユーロ高の1ユーロ=130円05銭となりました。

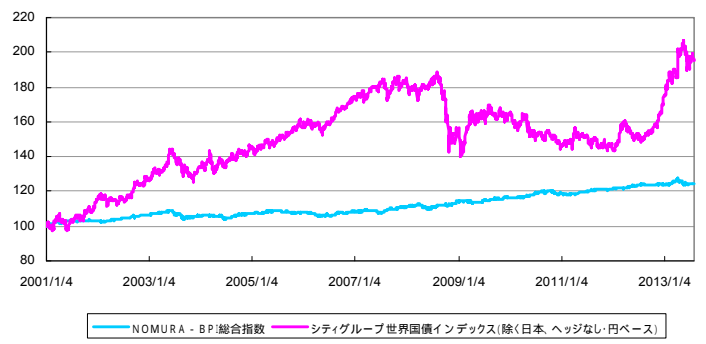
### 日本と外国の株式市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

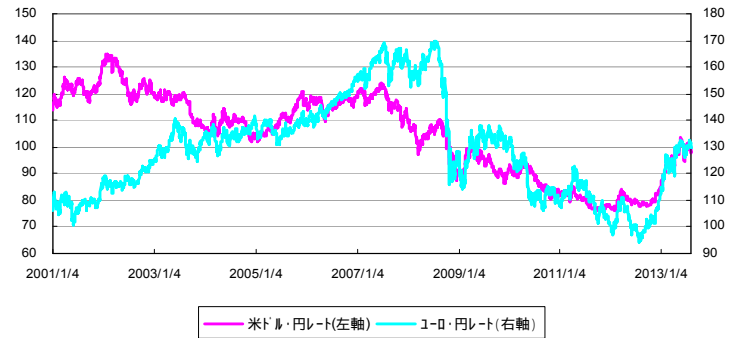


### 日本と外国の債券市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



### 外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート (2013年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

## 特別勘定の種類と運用方針について

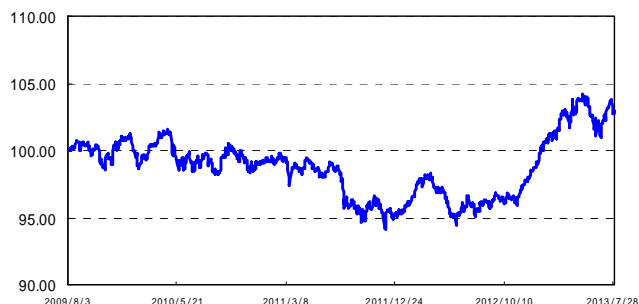
特別勘定名	基本資産配分比率		利用する投資信託		委託会社
			投資信託名	運用方針	
アロケーション 20(09)C	日本債券	80.0%	適格機関投資家私募 アライアンス・ バーンスタイン・ グローバル・ バランス (20/80)	<p>当投資信託は、主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、国内外の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物、株価指数先物へ分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。</p> <p>各マザーファンド受益証券への資産配分は、信託財産の純資産総額に対して左記の割合を基本とし、一定の規律に従いリバランス<sup>*1</sup>を行います。 (各マザーファンド受益証券への資産配分等は、4ページに記載しています。)</p> <p>各マザーファンドは各々のベンチマークに連動した投資成果を目指します。 (各々のベンチマーク等は、4ページに記載しています。)</p> <p>実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p>	アライアンス・ バーンスタイン 株式会社
	日本株式	10.0%			
	米国株式 (米ドル・ ベース)	5.0%			
	欧州株式 (ユーロ・ ベース)	5.0%			

特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、法令等の改正または効率的な資産運用が困難になる等の理由により、変更されることがあります。なお、委託会社等の運用協力会社については、運用成績の悪化等、弊社がお客さまの資産運用にふさわしくないと判断した場合、変更させていただくことがあります。特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

## 特別勘定の運用状況 [2013年7月 末日現在]

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



特別勘定のユニットプライスは、  
特別勘定の設定日を100.00として計算しています。

アロケーション20(09)C			
特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)		
2013年7月末	102.78	過去1ヶ月	0.77%
2013年6月末	102.00	過去3ヶ月	▲0.84%
2013年5月末	102.64	過去6ヶ月	1.88%
2013年4月末	103.65	過去1年	7.38%
2013年3月末	102.34	過去3年	3.42%
2013年2月末	101.29	設定来	2.78%

実際のユニットプライスの小数点第三位を四捨五入して表示しています。  
騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する  
当月末のユニットプライスの変動率を表しています。  
ユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	アロケーション20(09)C	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	71,983	1.0%
その他有価証券	7,289,560	99.0%
合計	7,361,543	100.0%

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。  
金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

\* 3ページ～8ページに記載されている「\*1～\*5」の用語説明は、9ページに記載しています。

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート (2013年7月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 適格機関投資家私専アライアンス・パースタイン・グローバル・バランス(20/80)の運用状況

[2013年7月 末日現在]

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私専 アライアンス・パースタイン・グローバル・バランス(20/80)  
 【委託会社】 アライアンス・パースタイン株式会社  
 【運用方針】

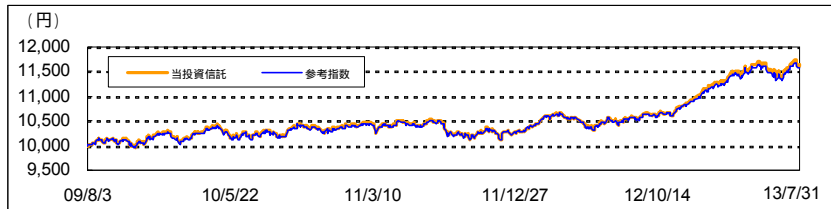
\* 「当投資信託」と呼ぶことがあります。

当投資信託は、主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、国内外の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物、株価指数先物へ分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。各マザーファンド受益証券への資産配分は、信託財産の純資産総額に対して下記の割合を基本とし、一定の規律に従い「バランス」を行います。各マザーファンドは下記のベンチマークに連動した投資成果を目指します。実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

### 各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券		ベンチマーク	参照ページ
		正式名称	略称名称		
適格機関投資家私専 アライアンス・パースタイン・ グローバル・ バランス (20/80)	日本債券 80.0%	アライアンス・パースタイン 日本債券インデックス・マザーファンド受益証券	日本債券インデックスMファンド	パークレイズ 日本10年国債 先物インデックス*2	5ページ
	日本株式 10.0%	アライアンス・パースタイン 日本株式インデックス・マザーファンド受益証券	日本株式インデックスMファンド	TOPIX (東証株価指数、配当込み)*3	6ページ
	米国株式 (米ドル・ ベース) 5.0%	アライアンス・パースタイン 米国株式インデックス・マザーファンド受益証券	米国株式インデックスMファンド	S&P500 株価指数*4 (円ベース)	7ページ
	欧州株式 (ユーロ・ ベース) 5.0%	アライアンス・パースタイン 欧州株式インデックス・マザーファンド受益証券	欧州株式インデックスMファンド	ユーロ・ストックス 50種インデックス*5 (円ベース)	8ページ

### 当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2009年8月3日)を10,000として指数化しています。左記のグラフ中の「当投資信託」は基準価額(分配金(課税前)再投資)を用いており、課税前分配金を決算日の基準価額で全額再投資したと仮定した場合の推移を示しています。「参考指数」は、各マザーファンドのベンチマークを各々の基本資産配分比率で組み合わせた合成指数です。

### 当投資信託の概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	11,620円	11,501円	+119円
純資産総額(百万円)	216,184	215,858	+326

### 当投資信託の資産構成

	基本資産配分比率	当投資信託の資産構成
日本債券インデックスMファンド	80.00%	80.23%
日本株式インデックスMファンド	10.00%	9.43%
米国株式インデックスMファンド	5.00%	5.13%
欧州株式インデックスMファンド	5.00%	5.24%
現金等	-	▲0.02%
合計	100.00%	100.00%

当投資信託の資産構成は、純資産総額に対する比率です。

計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことにより「現金等」の値がマイナスで表示されることがあります。

### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.03%	▲0.09%	3.41%	10.68%	13.09%	16.20%
参考指数	1.04%	▲0.03%	3.42%	10.34%	12.88%	15.73%
差	▲0.01%	▲0.06%	▲0.01%	0.34%	0.21%	0.47%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年8月3日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

### 当投資信託の分配金実績(税引前)

	直前期	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
決算日	2013/6/17	2012/6/15	2011/6/15	2010/6/15	-	-	-
分配金	0	0	0	0	-	-	0

1万口当たりの税引前分配実績です。

・表示桁未満の数値がある場合、原則四捨五入で処理しています。

・3ページ~8ページに記載されている「\*1~\*5」の用語説明は、9ページに記載しています。

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート(2013年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## (参考情報) アライアンス・パースタイン・日本債券インデックス・マザーファンド受益証券 [2013年7月 末日現在]

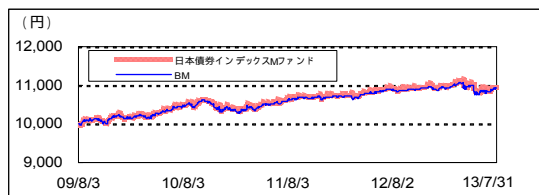
### マザーファンド受益証券(日本債券インデックスMファンド)について

[投資信託名] アライアンス・パースタイン・日本債券インデックス・マザーファンド受益証券 \*「日本債券インデックスMファンド」と呼ぶことがあります。  
[委託会社] アライアンス・パースタイン株式会社  
[運用方針等]

主として、わが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資します。

パークレイズ日本10年国債先物インデックス<sup>\*2</sup>をベンチマークとし、その動きに連動する投資成果を目標として運用を行います。公社債の実質組入(組入現物公社債の時価総額に債券先物取引の買建玉の時価総額を加算し、債券先物取引の売建玉の時価総額を控除した額の信託財産の純資産総額に対する割合をいいます。)は、原則として高位を維持します。債券先物取引を活用します。このため、債券の組入総額と債券先物取引の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。国内において行われる有価証券先物取引および金利に係る先物取引ならびに外国の市場における有価証券先物取引および金利に係る先物取引と類似の取引を行うことができます。信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利スワップ取引を行うことができます。資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等および信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。

### 日本債券インデックスMファンドの基準価額の推移



### 日本債券インデックスMファンドの概況

	当月末
基準価額	10,969円
純資産総額(百万円)	249,946

純資産総額は単位未満切捨てで処理しています。

投資信託の設定日(2009年8月3日)を10,000として指数化しています。左記のグラフ中の「日本債券インデックスMファンド」は「日本債券インデックスMファンド」の基準価額の推移を示しています。「BM」とは、ベンチマークを指します。

### 日本債券インデックスMファンドの騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.65%	▲0.45%	▲0.18%	0.54%	4.71%	9.69%
BM	0.64%	▲0.47%	▲0.21%	0.46%	4.49%	9.17%
差	0.01%	0.02%	0.03%	0.08%	0.22%	0.52%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年8月3日)を起点として計算しています。投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。「BM」とは、ベンチマークを指します。

### 日本債券インデックスMファンドの詳細情報

先物を中心とした運用を行っているため、国債証券、先物の証拠金、現預金等の投資比率が高くなっております。

#### 資産構成比率等

資産の種類および銘柄名	国/地域	クーポン	償還日	投資比率
国債証券	-	-	-	71.79%
第364回国庫短期証券	日本	0.000%	2013年11月11日	36.20%
第360回国庫短期証券	日本	0.000%	2014年4月21日	35.59%
-	-	-	-	-
証拠金	-	-	-	3.09%
現預金等	-	-	-	25.13%
合計	-	-	-	100.00%

「クーポン」とは、債券の額面に対して毎年受け取れる利息の割合のことで表面利率を表します。「証拠金」は国内外の主要取引所に上場する先物に投資する際に必要となります。

#### その他投資資産の主要なもの

取引所	資産の種類	買建/売建	通貨	投資比率
東京証券取引所	有価証券先物取引 長期国債先物取引 2013年9月限	買建	日本円	99.75%

ご参考：ベンチマークである「パークレイズ日本10年国債先物インデックス<sup>\*2</sup>」の情報

#### 資産構成比率等

取引所	資産の種類	通貨	比率
東京証券取引所	有価証券先物取引 長期国債先物取引 2013年9月限	日本円	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、原則四捨五入で処理しています。

・3ページ~8ページに記載されている「\*1~\*5」の用語説明は、9ページに記載しています。

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート(2013年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

**(参考情報) アライアンス・バーンスタイン・日本株式インデックス・マザーファンド受益証券 [2013年7月 末日現在]**

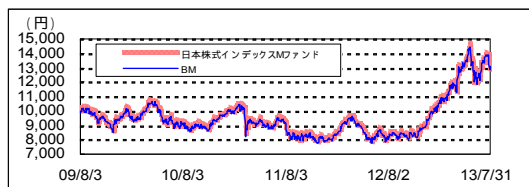
マザーファンド受益証券(日本株式インデックスMファンド)について

[投資信託名] アライアンス・バーンスタイン・日本株式インデックス・マザーファンド受益証券 \*「日本株式インデックスMファンド」と呼ぶことがあります。  
[委託会社] アライアンス・バーンスタイン株式会社  
[運用方針等]

主として、わが国の国債に投資するとともに、TOPIX(東証株価指数、配当込み)<sup>\*3</sup>の動きに連動する主要取引所株価指数先物に投資します。ただし、TOPIXに採用されている企業の株式に投資する場合があります。

TOPIX(東証株価指数、配当込み)<sup>\*3</sup>をベンチマークとし、その動きに連動する投資成果を目標として運用を行います。株式の実質組入(組入現物株式の時価総額に株価指数先物取引等の買建玉の時価総額を加算し、株価指数先物取引等の売建玉の時価総額を控除した額の信託財産の純資産総額に対する割合をいいます。)は原則として高位を維持します。株価指数先物取引等を活用します。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等および信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。

## 日本株式インデックスMファンドの基準価額の推移



## 日本株式インデックスMファンドの概況

	当月末
基準価額	12,845円
純資産総額(百万円)	37,529

純資産総額は単位未満切捨てで処理しています。

投資信託の設定日(2009年8月3日)を10,000として指数化しています。左記のグラフ中の「日本株式インデックスMファンド」は「日本株式インデックスMファンド」の基準価額の推移を示しています。「BM」とは、ベンチマークを指します。

## 日本株式インデックスMファンドの騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	▲0.49%	▲3.57%	20.88%	56.00%	41.39%	28.45%
BM	▲0.18%	▲2.70%	21.69%	57.19%	42.56%	28.67%
差	▲0.31%	▲0.87%	▲0.80%	▲1.19%	▲1.17%	▲0.22%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年8月3日)を起点として計算しています。投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。「BM」とは、ベンチマークを指します。

日本株式インデックスMファンドの詳細情報  
先物を中心とした運用を行っているため、国債証券、先物の証拠金、現預金等の投資比率が高くなっております。

資産構成比率等				
資産の種類および銘柄名				
	国/地域	クーポン	償還日	投資比率
国債証券	-	-	-	86.29%
第360回国庫短期証券	日本	0.000%	2014年4月21日	53.26%
第364回国庫短期証券	日本	0.000%	2013年11月11日	33.03%
-	-	-	-	-
証拠金	-	-	-	-0.09%
現預金等	-	-	-	13.79%
合計	-	-	-	100.00%

「クーポン」とは、債券の額面に対して毎年受け取れる利息の割合のことで表面利率を表します。「証拠金」は国内外の主要取引所に上場する先物に投資する際に必要となります。

## その他投資資産の主要なもの

取引所	資産の種類	買建/売建	通貨	投資比率
東京証券取引所	有価証券先物取引 TOPIX先物取引 2013年9月限	買建	日本円	99.72%

ご参考：ベンチマークである「TOPIX(東証株価指数、配当込み)<sup>\*3</sup>」の情報

### 組入上位10銘柄

銘柄	業種	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.88%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.86%
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.13%
4 本田技研工業	輸送用機器	1.95%
5 ソフトバンク	情報・通信業	1.90%
6 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.65%
7 日本たばこ産業	食料品	1.36%
8 NTT	情報・通信業	1.31%
9 キヤノン	電気機器	1.12%
10 三菱地所	不動産業	1.10%
合計		20.25%

### 業種別構成比率

業種	比率
1 輸送用機器	11.99%
2 電気機器	11.38%
3 銀行業	10.25%
4 情報・通信業	6.92%
5 化学	5.42%
6 機械	5.01%
7 卸売業	4.53%
8 小売業	4.43%
9 医薬品	4.42%
10 その他	35.65%
合計	100.00%

業種は、東京証券取引所の33業種分類で区分しています。

・表示桁未満の数値がある場合、原則四捨五入で処理しています。・3ページ～8ページに記載されている「\*1～\*5」の用語説明は、9ページに記載しています。

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート (2013年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## (参考情報) アライアンス・バーンスタイン・米国株式インデックス・マザーファンド受益証券 [2013年7月 末日現在]

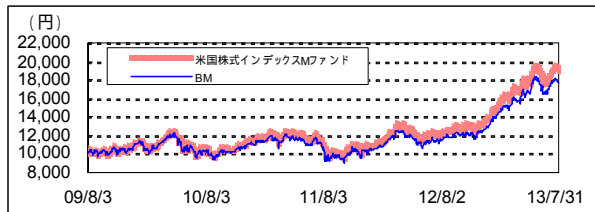
マザーファンド受益証券(米国株式インデックスMファンド)について

【投資信託名】 アライアンス・バーンスタイン・米国株式インデックス・マザーファンド受益証券 \*「米国株式インデックスMファンド」と呼ぶことがあります。  
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社  
 【運用方針等】

主として、米国の国債に投資するとともに、S & P500株価指数<sup>\*4</sup>(円ベース)の動きに連動する主要取引所株価指数先物に投資します。ただし、S & P500株価指数に採用されている企業の株式に投資する場合があります。

S & P500株価指数<sup>\*4</sup>(円ベース)をベンチマークとし、その動きに連動する投資成果を目標として運用を行います。株式の実質組入(組入現物株式の時価総額に株価指数先物取引等の買建玉の時価総額を加算し、株価指数先物取引等の売建玉の時価総額を控除した額の信託財産の純資産総額に対する割合をいいます。)は原則として高位を維持します。株価指数先物取引等を活用します。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。外貨建資産に対する為替ヘッジは、原則として行いません。信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、外国為替予約取引を行うことができます。資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等および信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。

### 米国株式インデックスMファンドの基準価額の推移



### 米国株式インデックスMファンドの概況

	当月末
基準価額	18,974円
純資産総額(百万円)	20,357

純資産総額は単位未満切捨てで処理しています。

投資信託の設定日(2009年8月3日)を10,000として指数化しています。上記のグラフ中の「米国株式インデックスMファンド」は「米国株式インデックスMファンド」の基準価額の推移を示しています。「BM」とは、ベンチマークを指します。

### 米国株式インデックスMファンドの騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.31%	6.63%	22.05%	55.50%	83.01%	89.74%
BM	3.97%	5.97%	20.80%	52.70%	73.15%	76.75%
差	0.34%	0.66%	1.25%	2.80%	9.86%	12.99%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年8月3日)を起点として計算しています。投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。「BM」とは、ベンチマークを指します。

米国株式インデックスMファンドの詳細情報  
 先物を中心とした運用を行っているため、国債証券、先物の証拠金、現預金等の投資比率が高くなっております。

#### 資産構成比率等

資産の種類および銘柄名	国/地域	クーポン	償還日	投資比率
<b>国債証券</b>				
US TREASURY	アメリカ	0.000%	2014年5月1日	82.33%
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
<b>証拠金</b>				
-	-	-	-	8.75%
<b>現預金等</b>				
-	-	-	-	8.92%
合計	-	-	-	100.00%

「クーポン」とは、債券の額面に対して毎年受け取れる利息の割合のことで表面利率を表します。「証拠金」は国内外の主要取引所に上場する先物に投資する際に必要となります。

#### その他投資資産の主要なもの

取引所	資産の種類	買建/売建	通貨	投資比率
シカゴ商業取引所	有価証券指数等先物取引 S&P 500先物取引 2013年9月限	買建	米ドル	99.71%

ご参考：ベンチマークである「S & P500株価指数<sup>\*4</sup>(円ベース)」の情報

#### 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	比率
1 アップル	アメリカ	情報技術	2.83%
2 エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	2.78%
3 ジョンソン・エンド・ジョンソン	アメリカ	ヘルスケア	1.75%
4 ゼネラル・エレクトリック	アメリカ	資本財・サービス	1.68%
5 シェブロン	アメリカ	エネルギー	1.63%
6 マイクロソフト	アメリカ	情報技術	1.59%
7 グーグル	アメリカ	情報技術	1.59%
8 プロクター・アンド・ギャンブル	アメリカ	生活必需品	1.47%
9 ウェルズ・ファーゴ	アメリカ	金融	1.43%
10 パークシャー・ハサウェイ	アメリカ	金融	1.41%
合計			18.16%

#### セクター別構成比率

セクター	比率
1 情報技術	17.67%
2 金融	16.73%
3 ヘルスケア	12.98%
4 一般消費財・サービス	12.24%
5 エネルギー	10.55%
6 生活必需品	10.39%
7 資本財・サービス	10.29%
8 公益事業	3.30%
9 素材	3.29%
10 電気通信サービス	2.55%
合計	100.00%

セクターは、GICS(世界産業分類基準)の10業種分類で区分しています。(GICSとはMSCI IncとS & P(スタンダード・アンド・プアーズ社)との共同開発による業種分類基準であり、Global Industry Classification Standardの略称です。)

・表示桁未満の数値がある場合、原則四捨五入で処理しています。

・3ページ～8ページに記載されている「\*1～\*5」の用語説明は、9ページに記載しています。

# 変額個人年金保険(09)終身D3型 特別勘定の月次運用実績レポート (2013年7月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## (参考情報) アライアンス・バーンスタイン・欧州株式インデックス・マザーファンド受益証券 [2013年7月 末日現在]

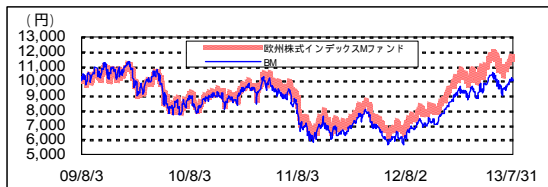
マザーファンド受益証券(欧州株式インデックスMファンド)について

【投資信託名】 アライアンス・バーンスタイン・欧州株式インデックス・マザーファンド受益証券 \*「欧州株式インデックスMファンド」と呼ぶことがあります。  
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社  
 【運用方針等】

主として、欧州の国債に投資するとともに、ユーロ・ストックス50種インデックス\*5(円ベース)の動きに連動する主要取引所株価指数先物に投資します。ただし、ユーロ・ストックス50種インデックスに採用されている企業の株式に投資する場合があります。

ユーロ・ストックス50種インデックス\*5(円ベース)をベンチマークとし、その動きに連動する投資成果を目標として運用を行います。株式の実質組入(組入現物株式の時価総額に株価指数先物取引等の買建玉の時価総額を加算し、株価指数先物取引等の売建玉の時価総額を控除した額の信託財産の純資産総額に対する割合をいいます。)は原則として高位を維持します。株価指数先物取引等を活用します。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。外貨建資産に対する為替ヘッジは、原則として行いません。信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、外国為替予約取引を行うことができます。資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等および信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。

### 欧州株式インデックスMファンドの基準価額の推移



### 欧州株式インデックスMファンドの概況

	当月末
基準価額	11,537円
純資産総額(百万円)	20,798

純資産総額は単位未満切捨てで処理しています。

投資信託の設定日(2009年8月3日)を10,000として指数化しています。左記のグラフ中の「欧州株式インデックスMファンド」は「欧州株式インデックスMファンド」の基準価額の推移を示しています。「BM」とは、ベンチマークを指します。

### 欧州株式インデックスMファンドの騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	6.68%	4.97%	9.12%	65.38%	29.92%	15.37%
BM	6.56%	3.02%	6.18%	59.93%	15.15%	0.72%
差	0.11%	1.95%	2.93%	5.45%	14.77%	14.65%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年8月3日)を起点として計算しています。投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。「BM」とは、ベンチマークを指します。

欧州株式インデックスMファンドの詳細情報  
先物を中心とした運用を行っているため、国債証券、先物の証拠金、現預金等の投資比率が高くなっております。

### 資産構成比率等

資産の種類および銘柄名	国/地域	クーポン	償還日	投資比率
国債証券	-	-	-	78.34%
FRENCH TREASURY	フランス	0.000%	2013年11月14日	78.34%
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
証拠金	-	-	-	12.64%
現預金等	-	-	-	9.02%
合計	-	-	-	100.00%

「クーポン」とは、債券の額面に対して毎年受け取れる利息の割合のことで表面利率を表します。「証拠金」は国内外の主要取引所に上場する先物に投資する際に必要となります。

### その他投資資産の主要なもの

取引所	資産の種類	買建/売建	通貨	投資比率
ユーロックス・ドイツ金融先物取引所	有価証券指数等先物取引 EURO STOXX 50先物取引 2013年9月限	買建	ユーロ	99.53%

ご参考：ベンチマークである「ユーロ・ストックス50種インデックス\*5(円ベース)」の情報( )  
組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	比率
1 サノフィ・アベンティス	フランス	ヘルスケア	6.07%
2 トタル	フランス	エネルギー	5.34%
3 バイエル	ドイツ	ヘルスケア	4.29%
4 シーメンス	ドイツ	資本財・サービス	4.09%
5 BASF	ドイツ	素材	3.99%
6 SAP	ドイツ	情報技術	3.38%
7 サンタンデル銀行	スペイン	金融	3.35%
8 アンハイザー・ブッシュ・インペブ	ベルギー	生活必需品	3.22%
9 アリアンツ	ドイツ	金融	3.21%
10 ユニリーバ	オランダ	生活必需品	3.01%
合計			39.94%

### セクター別構成比率

セクター	比率
1 金融	24.63%
2 ヘルスケア	11.46%
3 生活必需品	11.06%
4 資本財・サービス	10.81%
5 一般消費財・サービス	9.05%
6 エネルギー	8.82%
7 素材	7.13%
8 電気通信サービス	6.22%
9 公益事業	6.07%
10 情報技術	4.74%
合計	100.00%

ストックス・リミテッド社が四半期毎(3・6・9・12月)に公表するデータを記載しています。セクターは、GICS(世界産業分類基準)の10業種分類で区分しています。(GICSとはMSCI Inc.とS&P(スタンダード・アンド・プアーズ社)との共同開発による業種分類基準であり、Global Industry Classification Standardの略称です。)

・表示桁未満の数値がある場合、原則四捨五入で処理しています。・3ページ-8ページに記載されている「\*1~\*5」の用語説明は、9ページに記載しています。



